

# Blood Information

ブラッド・インフォメーション

献血月刊情報 2019年1月号

〔発行元〕 岩手県赤十字血液センター献血推進課

〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳6-1-6

TEL: 019-637-7201

## CONTENTS

- ・クリスマス献血2018ご協力ありがとうございました
- ・健康ミニ知識 vol.27 インフルエンザの感染と予防

# 新年のご挨拶 2019年 亥

岩手県赤十字血液センター 所長 中居 賢司

皆様、明けましておめでとうございます。日頃、本県の血液事業にご尽力・ご貢献賜り、心より御礼申し上げます。2011年3.11の東日本巨大地震・巨大津波より8年余、2016年の台風10号災害より3年余が経過するところです。災害で被害を受けた沿岸地区・岩泉地区の更なる復興の年となるよう、心より祈念します。

1900年、ランドスタイナーがABO型血液型を発見して、安全な輸血の歴史の始まりとなりました。昭和39年（1964年）、ライシャワー米国駐日大使が暴漢に襲われ、その治療のための輸血により肝炎に罹患しました。これを契機に、昭和39年8月21日に「献血推進」が閣議決定されました。同年、日本赤十字社血液センター規則が制定、岩手県赤十字血液センターも昭和40年4月（1965年）より業務を開始しました。日本の血液事業は、厚生労働省が基本的政策を決定、岩手県と各市町村と献血協議のうえ、岩手県赤十字血液センターが採血と医療機関への供給を担っています。今年で54年目を迎えます。

平成24年より、日本赤十字社血液事業が広域事業運営体制となり、岩手県の献血からの血液は仙台にある東北ブロック血液センターで赤血球、血漿、血小板に製剤化され、県内の医療機関に供給されています。また、個別遺伝子増幅テスト（NAT）が導入され輸血後感染症は劇的に減少しました。平成28年度には洗浄血小板が導入され、非溶血性副作用の軽減に寄与しています。

平成29年度、移動バスで全血献血と盛岡市内大通りの献血ルーム「メルシー」で成分献血を主体に行い、43,221人の皆様に献血へのご協力を頂きました（移動バス全血献血者数25,934名、献血ルームメルシーでの献血者数17,287名）。市町村献血推進協議会、献血協力団体、各報道機関ならびに複数回献血クラブの皆様にも御礼申し上げます。

昨年、新しいがん免疫治療薬を開発した京都大学名誉教授・本庶祐先生がノーベル医学・生理学賞を受賞しました。また、内視鏡外科手術などの医療技術の進歩も目覚ましいものがあります。しかし、血液製剤は日々進化している現代医療の支援に欠かせないもののひとつです。岩手県赤十字血液センターは、献血推進と安全な血液製剤の安定供給を目指していく所存です。昨年12月の岩手県献血推進協議会で医療機関の需要動向を把握したうえ、平成31年度献血推進計画が決定されました。少子化を向かえ献血者減少が予測され、若年層（高校生、大学生など）に対する献血啓発や各種献血キャンペーン（クリスマス、バレンタインなど）にも取り組んでいます。

当血液センターでは、岩手の歴史と偉人を知って頂く「巖手歴史街道」や新渡戸稲造などに関する書籍コーナーを献血ルーム「メルシー」に設置してあります。また、献血者の健康啓発のため、「貧血を防ぐ健康生活」、「あなたはメタボ？」「高血圧症」「献血de健康管理」などのパンフレットをホームページに掲載しています。血液事業を通じて地域の連携「絆」を推進して、健康で住みやすい夢県土いわての育成に貢献したいと考えています。皆様のご協力をお願いします。



12月2日～24日までの23日間、県内の全会場で献血にご協力いただいた方に「フリースブランケット」または「オリジナルマフラータオル」のいずれかプレゼントするイベントを開催しました。期間中の献血者数は、200mL献血131人（前年比113%）、400mL献血2,474人（前年比98%）、成分献血813人（前年比111%）、合計3,418人（前年比101%）の方にご協力いただきました。また、307人の多くのボランティアのご協力をいただきました。献血していただいた方々、ボランティアの方々、ご協力大変ありがとうございました。



## 健康ミニ知識 vol.27 インフルエンザの感染と予防

インフルエンザの感染には飛沫感染と接触感染の2種類があります。飛沫感染は、感染した人がせきをする事で飛んだ、飛沫に含まれるウイルスを、別の人が口や鼻から吸い込んでしまい、ウイルスが体内に入り込むことです。接触感染は、感染した人がせきを手で押さえた後や、鼻水を手でぬぐった後に、ドアノブ、スイッチなどに触れると、その触れた場所にウイルスを含んだ飛沫が付着することがあります。その場所に別の人が手で触れ、さらにその手で鼻、口に再び触れることにより、粘膜などを通じてウイルスが体内に入り感染します。

インフルエンザに感染しないためには、この飛沫感染、接触感染といった感染経路を断つことが大切です。人が多く集まる場所から帰ってきたときには手洗いを心がけましょう。アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。普段からの健康管理が重要です。栄養と睡眠を十分にとり、抵抗力を高めておくこともインフルエンザの発症を防ぐ効果があります。また、インフルエンザワクチンの予防接種には、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果が期待されます。厚生労働省は、インフルエンザの発生状況について、情報収集を行うとともに、集められた情報を分析し、提供・公開しています。



### 正しいマスク装着方法

- 鼻と口の両方を確実に覆います。
- ゴムひもを耳にかけます。
- フィットするように調節します。



### 効果のないマスク装着の例

- ×鼻の部分に隙間がある。
- ×あごが大きく出ている。

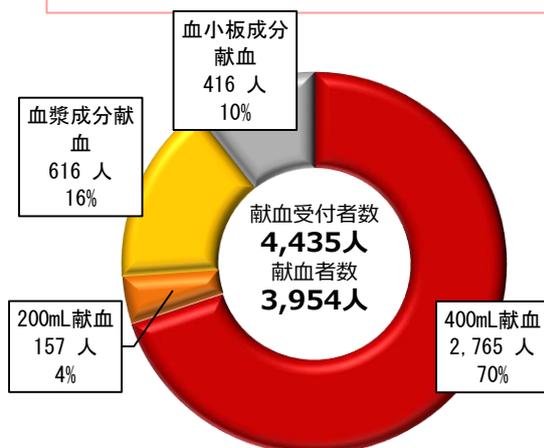
インフルエンザに罹った方は完全に治癒して一定期間経過するまで献血はご遠慮いただくようお願いします。

厚生労働省のホームページ [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleza/) を加筆修正

## Data

### 岩手県の献血・供給状況（12月）

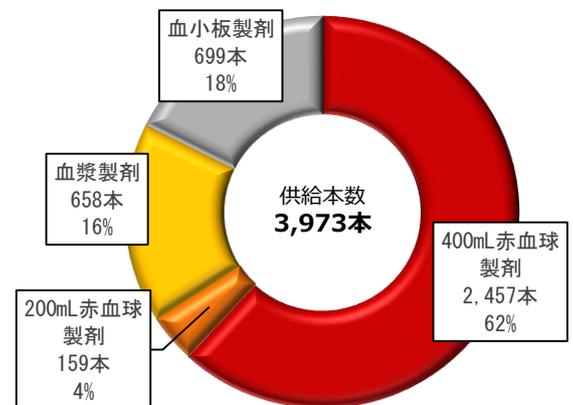
#### 岩手県の献血状況



#### 【献血状況】

全血献血は200mL換算で**5,687本**、400mL献血率（400mL献血者数/全血献血者数）は**94.6%**でした。

#### 岩手県の供給状況



#### 【供給状況】

血漿製剤は血漿成分献血からだけではなく、200mL献血や400mL献血からも作られています。

ホームページでも閲覧できます。H30年4月1日よりアドレスが変更になりました。  
岩手県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/iwate/>

**Blood Information**  
ブラッド・インフォメーション  
献血月刊情報